

2018年10月23日発行

世界情勢ブリーフィング

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/>

■ サウジ政府、「失踪」記者が総領事館で死亡と初めて認める（10月20日付BBC）

<https://www.bbc.com/japanese/45924412>

■ カシヨジ記者失踪、サウジ「殺人部隊」と言われる15人はどんな人物か（10月19日付BBC）

<https://www.bbc.com/japanese/features-and-analysis-45910778>

■ トランプ氏、記者暴行の議員を称賛 サウジ記者失踪の裏で（10月19日付AFP）

<http://www.afpbb.com/articles/-/3193920>

サウジ人の著名記者ジャマル・カシヨギがイスタンブールのサウジ総領事館で消息を絶った事件が世界中で波紋を広げています。

トランプ大統領はサルマン国王と電話会談を行った後、「国王は事件について何も知らないと言った。ならず者（rogue killers）が殺害したのだろう」と発言。その後ポンペオ国務長官がサウジを訪問。ムハンマド・ビン・サルマン（MbS）皇太子と会談し、笑顔で握手しています。

トルコは事件の捜査を進め、サウジ・トルコの合同捜査班がサウジ総領事館を搜索。トルコは毎日のように捜査状況をリークし、サウジも殺害を認める準備をしているとの報道が流れました。

リーク情報によればサウジはカシヨギ殺害のために本国から15人のサウジ人を総領事館に送り込んだとのこと。そのうち一人はすでにサウジ国内で「交通事故」で死亡しているそうです。

米議会ではサウジを厳しく追及する動きが高まり、超党派の上院議員がマグニツキー法（2012年に制定された人権侵害や汚職に関与している外国人に適用する制裁法）に基づく調査を行うようトランプ政権に要請しました。共和党も、ボブ・コーカー上院外交委員長やリンゼー・グラム上院議員がMbSの関与があったはずと主張して厳しく非難しています。

しかし、サウジを中東における最重要のパートナーとして扱い、同国との関係を強化して

きたトランプ大統領の歯切れは悪く、制裁の可能性を示唆しながらも、武器輸出を中止するつもりはないと断言しています。

また、今週開催されるサウジ経済投資フォーラムには、ムニューシン財務長官、欧州各国の閣僚、大手金融機関のトップらが相次いで欠席を表明しました。

サウジは当初「カショギ氏は生きて総領事館を出た」と述べていましたが、10月20日、一転して国営メディアがカショギの死亡を発表。サウジ当局によるとカショギは総領事館内で口論・殴り合いになり死亡したとのこと。サウジ国籍の18人を容疑者として拘束して捜査が行われ、MbSの側近である情報機関ナンバー2のアフメド・アシリ少将、王室顧問のサウド・カハタニらが解任され、MbSをトップとする調査委員会が立ち上がるなど、人事刷新や組織再編の動きも現れています。

しかしサウジの説明は誰にとっても納得のいくものではありませんでした。トランプすら発表直後に「うそやごまかしがある」と発言しています。

その後（10月21日）の報道では、本国から総領事館に送り込まれた15人は、カショギを拉致しようとしたが、抵抗されたため、もみ合いの末、窒息死させてしまったと匿名のサウジ高官が述べています。

ここで事件の鍵を握るのは、今回の事件について決定的な証拠を握っている可能性があるトルコです。エルドアン大統領は、捜査の詳細を10月23日に発表すると述べています。

情勢が激しく動く中、サウジはどうなるのか。米国はどう対応するのか。またトルコの思惑は何か。これらの点について解説します。

サウジ記者のトルコでの総領事館における殺害事件

●MbSの苦境

まずサウジはかなり苦しい立場に追い込まれています。

MbSの関与があったのかは定かではありません。テロリストはともかく、体制を批判する人物を殺害する例はサウジではほとんど聞かれません。それもカショギのような国際的に

著名なジャーナリストを殺害するとなれば、露見したときに受けるダメージは計り知れず、そこまでの無茶をするのだろうかという疑問がわきます。

サウジは現場での事故を主張していますが、その可能性もゼロではありません。後述するように、ほとんど全てのリーク情報はトルコから出ています。そのトルコにとってサウジは、中東の主導権を争うライバル的存在です。戦術的意図に基づいて情報を操作していることは間違いありません。

とはいえ、絶大な権力を掌握している MbS のコントロールを離れてこのような事件が起こるのも考えにくいところです。また、前回の記事で述べたとおり、事件前に取り沙汰されたサウジとカショギをめぐる動きは、過去に MbS がとった手法にも類似しています。

・「サウジ記者のトルコでのサウジ総領事館における殺害疑惑」(10/15)

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=6314>

MbS には「若き改革者」と「大胆で無謀な行動をいとわない危険な若者」という二つの顔があります。後者の面については実際に接したことがある外国人の多くが語っています。MbS と直接に交流があり、好意を抱いている人から話を聞いたことがあります。「彼は未熟で危うい。だからこそ魅力もあるし支えたくもなるのだが。」と述べていました。

MbS は以下の記事で述べたとおり、これまでのサウジではあり得なかったような強引なやり方で王国の武力、財力、情報力を固めています。

・「サウジの強権発動の衝撃」(17/11/14)

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=4649>

MbS の文化開放をはじめとする改革は若者から絶大な支持を受けています。サウジは人口の7割を30歳以下の若年層が占めており、数の上では巨大な支持基盤があることが大きな強みになっています。

しかし、MbS の大胆を超えて無謀にも見える冒険主義には国内で不安と不満がくすぶっています。サルマン国王は、例年であれば夏から秋にかけて外国に滞在して優雅な生活を送っていますが、今年はサウジ国内にとどまっているようです。同国王はアルツハイマーが進行しているとか、実は思いのほか元気らしいとか色々な噂がありますが、未熟な我が子を支えるために奮闘しているのでしょう。やはりサウジはサルマン国王がいなくなると相当危ない・・・とも言われています。

サウジがどう切り抜けるかは難問ですが、MbS が責任をとることは考えられません。行われるのはトカゲのしっぽ切りです。すでに MbS の側近である高官の解任と情報・安全保障機関の組織改編に向けた動きが始まっています。

人事の一新と組織の大胆な再編を発表し「一部の危険分子が暴走しました。『事故』という以前の説明は正確ではありませんでした。もうこんなことはありません。サウジは変わるんです。」・・・とアピールすることで幕引きをはかると予想されます。

ここで最も重視されるべきは米国の対応です。仮に米国が制裁、武器輸出禁止、同盟関係見直しといった強い動きに出れば、サウジは石油戦略の発動に訴えて対抗する可能性があります。

ただ、米国との間では、次項で述べますが、すでに手打ちに向けた動きが見えています。

また、トランプは今月初めに「サウジは米国の支援がなければ権力を維持できない。サルマン国王にもそう伝えた。」と発言しましたが、その発言の是非は別として、その指摘は限りなく事実に近いといえます。石油戦略は実際に発動すれば米国との関係を致命的なリスクにさらすことになるので、おそらく取り得ない選択肢でしょう。

これを機にサウジも自重し、MbS の急進的な側近も取り除かれ、とりあえず MbS 自身も慎重になると予想されます。この事件によってただちに MbS の体制が崩れることはないでしょう。

ただ、サルマン国王が亡くなったとき本当に大丈夫か・・・という懸念は深まります。また、米国との関係が予想を超えて致命的に悪化すれば、MbS が皇太子の座から降ろされる可能性はゼロではありません。そういう観測も出てきています。

いずれにしても、MbS が主導してきたサウジのイメージ改革は致命的な打撃を受けました。トルコのメディアの報道によれば、サウジは本国からこのために 15 人のサウジ人を総領事館に送り込み、わずか 7 分間で殺害。しかも生きたままカシヨギ記者の指を切り、バラバラに切り刻んだとのこと。

また、殺害を総領事の執務室で行おうとしたら総領事が「こちらに責任が及ぶから出ていけ」と言って、そうしたら容疑者の一人から「本国に戻ったとき無事でいたいなら黙ってる」と脅されたとか、その容疑者の一人はすでにサウジで「交通事故」で死亡しており、

脅した人物が次の標的とも言われています(黙っているべきは自分自身だったという・・・)。想像を絶する凄惨な世界が明るみに出ています。

トルコのメディアは事実上政権(エルドアン大統領)の支配下にあります。前述のとおり、政権が意図をもってリークを行うことで情報をコントロールしていることは疑いありません。しかし、ある程度の情報の歪曲があったとしても、いったん地に落ちた評判は回復困難でしょう。

こうなると、サウジへの投資はもちろん、サウジから資金を受けることも大きなリスクになります。ソフトバンクや邦銀大手、そしてシリコンバレーやハリウッドにも影響が出るでしょう。

●トランプの判断

トランプ大統領は、表向きサウジを非難しながらも、その関係を重視し、擁護する姿勢を示しています。イランを孤立化させる中東戦略の要であり、武器輸出先であり、ジャレッド・クシュナー大統領上級顧問と MbS の特別の関係からも、サウジを追い込むことはできるだけ避けたいのが本音です。

米政権の動きをみると、ポンペオ国務長官がサウジを訪問し MbS と笑顔で握手しています。このような写真を公開したことから言えるのは「米国は MbS を守る」というメッセージを内外に示したことです。後はお互いのメンツを立てるためにできることをすり合わせる、ということになります。

トランプはサウジ当局の説明に「ごまかしやうそがある」と述べていますが、MbS の責任を追及する気はないでしょう。「事故」という説明には無理があるので、もっと納得がいく説明を用意しなければダメだ、ぐらいのアドバイス(?) をすることは十分に予想できます。

おそらくトランプ政権は今回の事件の「関係者」を対象に制裁を発動するでしょう。しかし、これは MbS が行うトカゲのしっぽ切りに合わせることで、サウジと MbS にとってはほとんど打撃になりません。

武器輸出の制限も何らかの限定や条件を付けた上で実施するのかもしれませんが。しかしそれも両国の調整の下で行われるのは間違いないところです。

ちなみにトランプは先週、モンタナ州の選挙集会で、過去に英紙記者に暴行を加え有罪判決を受けた同州選出の下院議員グレッグ・ジアンフォルテを讃え、このタイミングで記者への攻撃を容認する発言をしたことで物議を醸しました。ただ、これもいつものトランプ節に過ぎず、例によって喜ぶ人は喜んでいきます。カショギの事件も、中間選挙に大きな影響を与えることはないと考えられます。

●エルドアン of 戦術

今回の事件によって最大の利益を得たのはトルコでしょう。トルコは今回の事件が大騒ぎになるのに先立ちブランソン牧師を釈放しましたが、おそらくこの二つの動きは関連しています。というのも、カショギが総領事館に入って消息を絶ったのは10月2日であり、この時点からトルコは状況を把握していたはずだからです。

しかも、カショギは元々エルドアン大統領とも親しい間柄であり、サウジにいると危険にさらされるカショギを庇護していたとも言われています。おそらく総領事館に入る前から厳重に警戒を払っていたと考えられます。

トルコとしては、この事件は、サウジと米国の関係にくさびを打ち込み、サウジと米国の両方に対して優位をとれるチャンスになるとみて、最大限に利用することを考えたのでしょう。トルコとサウジの関係は複雑化しており、特に近年、両国は中東においてリーダーシップ争いを展開していることは以下の記事で述べたとおりです。

・「サウジ記者のトルコでのサウジ総領事館における殺害疑惑」(10/15)

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=6314>

こうした戦略的な価値を考慮した上で、リークのタイミングとブランソン牧師の釈放を決めたとみられます(中東のメディアでは先週大騒ぎになる前からカショギが行方不明になったことは報道されていました)。その後も、捜査を司法の手に任せず、サウジとの合同捜査を含め、タイミングを見て情報を発表ないしリークするあたり、政治的な思惑が明確に見てとれます。

トルコは事件が起こった現場の音声データを入手しており、それはカショギが着けていたアップルウォッチから得たと報道されていますが、現実的に可能なのか、という指摘もあります。おそらくトルコは以前からあらゆる手段を使って情報収集を行っており、アップルウォッチの件をリークしたのはその手段を曖昧にする意図があったのではないかと思います。そうした推測をさせるほどにトルコの立ち回りは巧みでした。

ブランソン牧師の釈放と今回の事件を契機に、米国とトルコの関係の見通しは相当に改善しました。ポンペオ国務長官がサウジの直後にトルコを訪問し、今回の事件と今後の関係改善について話し合う機会を得たのも、トルコにとってはクリーン・ヒットでした。

トランプ政権はブランソン牧師の釈放が決定される直前に追加制裁を準備していたといわれています。その可能性はなくなり、逆に制裁解除の可能性が取り沙汰されるようになりました。こうした政治手腕の凄さはさすがエルドアンと思わせます。

私は、以下の記事で、8月時点に「私個人の見通しを述べれば、近い将来、エルドアンが譲歩し、部分的にせよ米国と何らかの合意を結び、緊急利上げも認めるのではないかと予想します。」「サンダース報道官は『ブランソン牧師が解放されても米国の関税措置は解除されない・・・ただ制裁措置は不当に身柄を拘束されていると人々の解放に関連しており（解放された時点で）解除を検討する』と発言。簡単に妥協には応じない姿勢を示しました。」と述べていましたが、ここに来てすべてが繋がってきたようです。

- ・「トルコ現代史（3）：新たなるエルドアンの時代（米国との衝突と通貨危機のリスク）」
(8/15)

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5973>

- ・「トルコリラの下落」(8/20)

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=6043>

そして、現時点で最も注目されるのは10月23日に予定されているエルドアンの説明です。エルドアンは「事件の全貌を明らかにする」と述べていますが、さてどうなのか。

仮に決定的な証拠をもっているとしても、それを出すとすればサウジと米国との関係で最も高く売れるときですから、すべてのカードを切ることはおそらくないと思います。

最後に、今回の事件によってイランも利を得ることになるでしょう。イランはこの事件に対して「サウジがカシヨギ氏を暗殺していたとしても驚かない」と述べる程度で、比較的静かですが、それはサウジが受けたダメージの大きさをよく分かった上での落ち着いた対応とみられます。

あとがき

広島カープがCSを制し日本シリーズ進出。ぐっちゃんさん、おめでとうございます（笑）。

一方、西武ライオンズは、ペナントレース首位にもかかわらずソフトバンクに敗れ日本シリーズには出られず。ソフトバンクは強いですね。

迫力あるチーム同士の日本シリーズ、楽しみですね。

【発行】 The Gucci Post

(Copyright 2018 グッチーポスト株式会社)

【世界情勢ブリーフィング HP】 <https://guccipost.co.jp/blog/jd/>

【バックナンバー】 <https://guccipost.co.jp/blog/guccipost/?p=395>

【グッチーポスト HP】 <https://guccipost.co.jp/blog/>

【編集部 Facebook】 <https://www.facebook.com/GucciPost/>

【編集部 twitter】 https://twitter.com/gucci_post

【お問い合わせ】 inquire@guccipost.co.jp

【内容についての質問・コメント】 jd.world.briefing@gmail.com

※本メルマガの内容は、筆者 JD の個人的な見解であり、グッチーポスト株式会社含めいかなる組織またはグッチー編集長含め他のいかなる個人の見解を代表ないし代理するものではなく、他の個人または組織がその内容に対して責任を負うことはありません。